

教育実践報告

「オンリーワン・ハイスクール指定」による地域との連携 ーグローバル人材育成のためのコンソーシアムと教員の協働ー

中村 真二

(静岡県立富士宮北高等学校)

Collaboration with Local Communities through "Only One High School" Designation:
Cooperation among Consortium and Teachers for Glocal Human Resource Development
Shinji Nakamura

要旨

静岡県教育委員会では、普通科教育の特色化を進め、生徒の多様なニーズに応え、学習意欲を喚起することができる学校づくりのためにオンリーワン・ハイスクール事業を推進している。本校はオンリーワン・ハイスクール（グローバル・ハイスクール）に応募し、実施校として指定された。本事業を推進するために地元の有識者からなるコンソーシアムを立ち上げ、校内の推進委員会と連携することで、地域と連携した探究的な学習活動を行っている。コンソーシアムと校内の推進委員会が連携して様々な教育活動を実施することで生徒の興味関心を引き出し、国際的な視野を持ちながら地域の課題に取り組むことができるグローバル人材の養成を目指している。

キーワード： オンリーワン・ハイスクール 地域連携 コンソーシアム グローバル人材 探究活動

1. 静岡県オンリーワン・ハイスクール事業の概要

静岡県では新しい時代に対応した魅力ある高等学校の実現のため、「新時代を拓く高校教育推進事業」を実施し、普通科改革として、高校生の可能性及び能力を伸長することを目的に「オンリーワン・ハイスクール」事業を実施している。この事業は取組テーマとして次の4つが設定された。

- ①「イノベーション・ハイスクール」
(文系・理系をバランスよく学ぶリベラルアーツの推進)
- ②「アカデミック・ハイスクール」
(SDGs等学際的・領域横断的な新たな社会課題の探究)
- ③「グローバル・ハイスクール」
(地域協働による地域社会の課題解決に向けた探究)
- ④「フューチャー・ハイスクール」
(過疎地域等の小規模校の地域に開かれた学校づくり)

本事業は、取組計画を公募した上で運営指導委員会(外部有識者会議)の審査により指定する学校と、県教育委員会の重点取組として高校教育課長が指定する学校の2つの区分により実施されている。研究期間は3年間で1校当たりの予算額は年間2,000,000円。

本校は「グローバル・ハイスクール」をテーマに選んで応募し、運営指導委員会審査の結果、実施校として指定された。

2. 本校の実施計画

事業の実施に当たって次のような3年間の実施計画を作成した。

目指す学校像

「世界文化遺産・富士山の恵みを活かし、地域と世界で活躍するグローバル人材の育成」

富士宮北高校はこれまで、「岳南に人材を育てる」という建学の理念のもと、優れた人材を輩出してきた。また富士宮市は、世界文化遺産・富士山を擁し、現在、その恵みを活かした国際文化都市の創造を目指している。富士宮北高校は、グローバルな視点をもって、主体的で意欲的に地域課題を解決し、地域から世界へと羽ばたくグローバルリーダーを育成する。

学校の課題

地域に根差し、実学に基づいた教育を行っている商業科に比べ、普通科の現在の教育内容は、将来像と直結しにくく、生徒の主体的な学びに課題がある。探究の時間の効果的な整備も含め、普通科の魅力化や特色化を図りたい。

生徒の課題

普通科の生徒の中には、将来像が明確でなく、進学先も漠然と選んでいる生徒が少なからずいる。生徒自身が、グローバルな視点をもって、自らの育った地域の特性と課題を学び深めることによって、主体的で意欲的な学びからの進路実現につなげたい。

3年間の取組計画

＜令和3年度＞

- ・地域課題解決のためのコンソーシアムの構築
- ・地元企業や自治体、関連団体との連携及び企画の運営
- ・富士山世界遺産センターとの連携及び企画の運営
- ・海外姉妹都市にある高校との交流

- ・英語・中国語・韓国語等を学ぶ機会の創出
- ・実践的な簿記、情報処理等を学ぶ機会の創出
- ・表現力向上に資する講座等の実施
- ・探究の時間の年間プログラムの整備
- ・1年目の成果の検証と次年度の計画

<令和4年度>

- ・コンソーシアムの継続及び提言の実施
- ・1年目に試行した各種事業の精選と継続
- ・探究の時間の年間プログラムの本格的な開始
- ・1年生は、地域や世界を知る講座の受講と実践
- ・2年生は、グループで研究テーマを設定し、課題解決のための調査やフィールドワークを実施

- ・2年間の成果の検証と次年度の計画

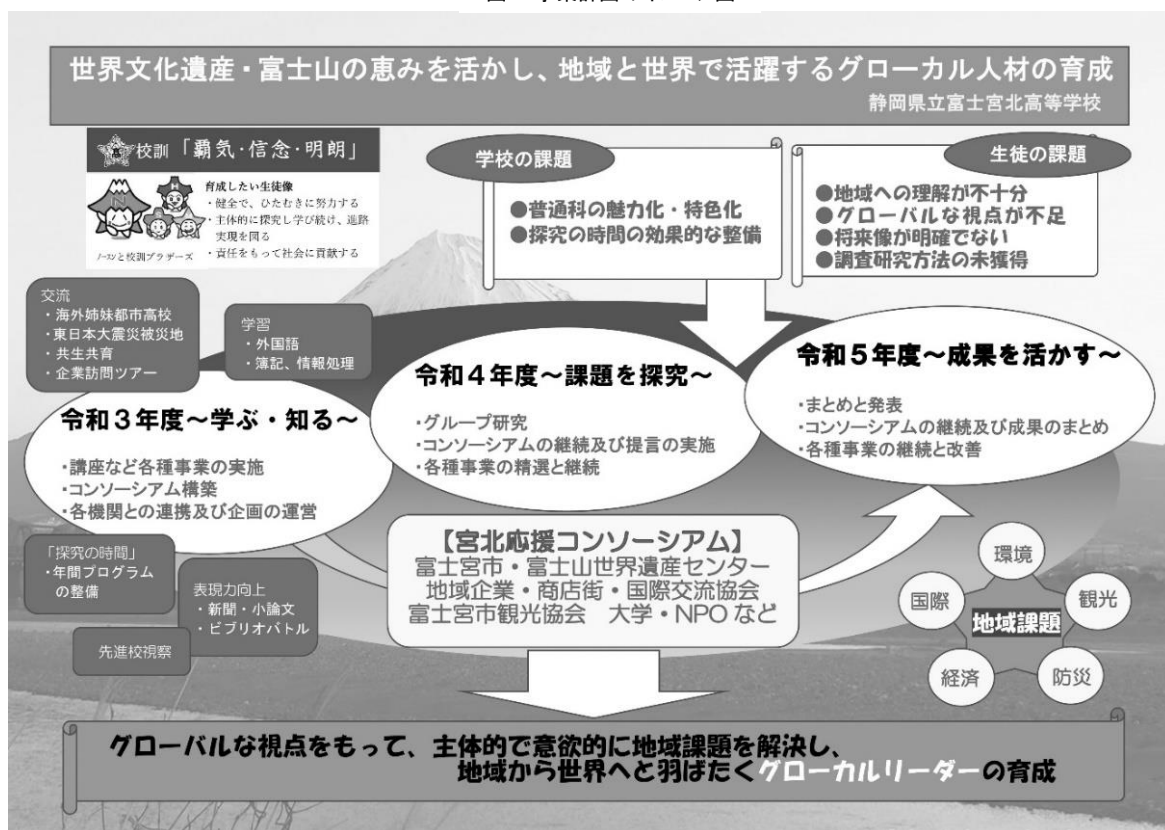
<令和5年度>

- ・コンソーシアムの継続及び成果のまとめ
- ・2年目に精選した各種事業の継続と改善
- ・探究の時間の3年間プログラムの暫定的な完成
- ・1年生は、地域や世界を知る講座の受講と実践
- ・2年生は、グループで研究テーマを設定し、課題解決のための調査やフィールドワークを実施
- ・3年生は、研究のまとめと発表、それを自らの進路実現に活かす。

- ・3年間の成果の検証と今後の展望のまとめ

以下、事業計画のイメージ図を図1に示す。

図1 事業計画のイメージ図



3. 宮北応援コンソーシアムの設立

本事業を推進するにあたり、大学関係者や、富士山世界遺産センターなど地域を担う各種団体、地元自治体などから構成されるコンソーシアムを構築し、宮北応援コンソーシアムという名称に定めた。

コンソーシアム委員一覧（令和3年度）

所属・役職	氏名	役割・担当
静岡大学地域創造学環 教授	水谷洋一	委員長 総括
静岡県富士山世界遺産センター 副館長	佐野博之	副委員長 富士山
富士宮市役所企画部 企画戦略課 主幹	市川祐介	委員 地域・企画
富士宮市役所環境部 環境企画課 主査	木ノ内洸也	委員 環境

富士宮市役所市民部 市民交流課 主査	芦澤雄一	委員 国際関係
富士宮商工会議所 総務課 課長	加藤孝明	委員 経済、企業
富士宮市観光協会 専務理事	土井一浩	委員 観光
富士特別支援学校富士宮分校 副校長	上村一成	委員 共生共有
P T A会長 税理士	渡邊稔夫	委員 P T A・経済
岳南朝日新聞社 記者	千頭和真理	委員 マスコミ関係
富士宮北高等学校 校長	中村真二	委員 学校代表

コンソーシアムは静岡大学地域創造学環教授の水谷

洋一氏に委員長をお願いし、年3回（9月、11月、2月）実施した。コンソーシアムでは事業の方向性に関する積極的な指導助言を行うだけでなく、国際、環境、観光など、各テーマ（分野）の活動を支援する担当を決め、校内推進委員会の教員と連携することで、協力して事業を実施している。（写真1）



（写真1 コンソーシアムの様子）

4. 校内推進委員会の立ち上げと事業の実施内容

校内にオンリーワン・ハイスクール推進委員会を立ち上げた。メンバーは、研修課長を委員長に、管理職、教務課長、進路課長、各学年の代表等の11名の委員で構成し、毎月、委員会を実施した。令和3年度は年10回実施。全般、富士山、環境、国際、経済、観光、防災、共生共育等のテーマ（分野）別の担当者を決め、コンソーシアム委員と連携しながら事業を企画した。校内委員会では、毎回、各委員が事業計画の説明と実施状況の説明を行い、進捗状況を確認するとともに全体で事業の推進方法を協議した。また、学校ホームページにオンリーワン専用ページを開設、事業の実施状況について積極的に掲載した。

令和3年度のテーマ（分野）別実施状況

【全般】

- すべての教室に地方紙、全国紙を各クラスに毎日配架、英字新聞を毎週配架（7月～）
- インターネット新聞記事検索システムの導入（9月～）
- 新聞の読み方講座① 講師：岳南朝日新聞社記者 千頭和真理（コンソーシアム委員）1年対象（12月）
- 新聞の読み方講座② 講師：静岡新聞記者 塩澤恵子、1年対象（1月）（写真2）
- ファシリテーター研修① 講師：ファシリテーター普及協会 小野寺郷子 静岡大学 水谷洋一 生徒対象のワークショップを全教員が見学（12月）
- ファシリテーター研修② 講師：静岡大学 水谷教授 全教員対象（12月）
- 「総合的な探究の時間」の推進研修 講師：総合教育センター 鈴木彰洋 全教員対象（1月）



（写真2 新聞の読み方講座の様子）

【富士山・環境】

- 地元自治会主催の川の清掃への参加（7月）2回 生徒会の呼びかけで延べ100名の生徒がボランティアとして参加
- 富士山に関する総合講座（富士山の魅力と課題） 講師：富士山世界遺産センター 山崎喜之 対象1年（11月）

【国際】

- 台湾高雄市立新莊高級中学とのオンライン交流 1年普通科英語表現の授業（学校紹介、東京オリンピック等の各テーマで交流）（11月）（写真3）
- 台湾交流がペンパル交流に発展、12月手紙を発送 → 1月台湾から返信が届く。アメリカサンタモニカとも同様なペンパル交流を実施。
- ACC学院（富士宮市内の日本語学校）の留学生との交流（12月、1月に3回実施）3年普通科の英語演習の授業で、ベトナム、インドネシア、インドネパール、中国、ペルー等からの留学生と交流（各国の挨拶、文化、高校生活の紹介など）（写真4）



（写真3 台湾の高校とのオンライン交流）



（写真4 ACC学院留学生との交流）

【経済】

- ・税理士に関する講演会 講師：渡邊稔夫(税理士 本校PTA会長 コンソーシアム委員)普通科3年簿記選択者対象(12月)
- ・実践的な情報処理技術の演習講座 講師：ファインネット協同組合 林康恵、鈴木美保 普通科3年情報処理選択者対象(12月)
- ・地元企業見学(カナエ工業株式会社、ミヤマ工業株式会社)会社見学、海外事業の説明、海外赴任経験者の講話など 希望者対象(12月)(写真5)



(写真5 地元企業見学の様子)

【観光】

- ・富士宮市の観光や産業について調べてプレゼンテーション(11~12月)3年の英語の授業
- ・グローバルエコツーリズム講演会 講師：エコロジック代表理事 新谷雅徳 全校生徒対象(3月)(写真6)



(写真6 グローバルエコツーリズム講演)

【防災】

- ・「富士山の噴火と防災」講座 講師：富士山世界遺産センター 山崎喜之 2年生物基礎の授業(1月)

【共生共育】

- ・富士特別支援学校富士宮分校の生徒と、デジタルデザイン講習 講師：静岡デザイン専門学校 講師 橋本明奈、三原正義 分校の生徒とデザイン分野への進学予定の3年生が参加(1月)

令和4年度のテーマ(分野)別実施状況

【全般】

- ・ファシリテーター講座(グループワーク入門講座) 講師：ファシリテーター普及協会 小野寺郷子、静岡大学 水谷洋一 1年生初期指導(4月)(写真7)
- ・すべての教室に地方紙、全国紙を各クラスに毎日配架、英字新聞を毎週配架 昨年から継続(4月~)
- ・新聞読み方講座 静岡新聞 記者 塩澤恵子(6月) 1年対象
- ・インターネット新聞記事検索システム研修(6月) 静岡新聞 デジタルビジネス局 小松謙一 1年対象 1人1台端末を活用(写真8)



(写真7 グループワーク研修の様子)



(写真8 新聞記事検索システム研修の様子)

【富士山・環境】

- ・地元自治会主催の川の清掃への参加(7月)計5回 生徒会の呼びかけで延べ150名が参加(写真9)
- ・ゼロカーボンシティ「オール富士宮」フェアにて環境活動や自然保護活動についての成果を生徒会が発表(7月)
- ・富士山歴史・自然ツアー 世界遺産センター 山宮浅間神社 陣馬の滝 鳴沢氷穴 等を見学 希望者対象(8月)(写真10)
- ・富士山ぐるっとツアー 北口本宮富士浅間神社 ふじさんミュージアム 等を見学 希望者対象(8月)
- ・静岡大学の出張講義 講師：静岡大学理学部 徳岡徹准教授 「富士山・静岡県内をフィールドとした植物の研究」2年理系生物選択者対象(10月)

- ・スターバックスのスタッフによる環境学習会
1年生対象（11月）（写真11）
- ・富士山に関する総合講座（富士山の魅力と課題）
講師：富士山世界遺産センター 山崎喜之 1年対象
（11月）



（写真9 地域住民との川の清掃活動）



（写真10 富士山 歴史・自然ツアー）



（写真11 スターバックスと連携した環境学習）

【国際】

- ・台湾高雄市立新莊高級中学とのオンライン交流
K I C（英語研究）部の生徒とのペンパル交流・プレゼント交換（5月～）
- ・韓国語講座 講師：ことばアカデミー 金昭映
（9月～11月）計10回（写真12）
- ・「ミャンマーの平和を考える」校内写真展（10月）
川口敏彦（写真家）・北角祐樹（ジャーナリスト）・WART（写真13）
- ・「ミャンマーの平和を考える」講演会・パネルディスカッション

- 川口敏彦（写真家）・堀沢光栄（国際交流協会理事長）・中村真二（校長）（11月）（写真14）
- ・アメリカサンタモニカ高校（富士宮市の海外姉妹都市）とのペンパル交流（11月）
- ・A C C学院（富士宮市内の日本語学校）の留学生との交流 2年生の英語授業（12月、1月）



（写真12 韓国語講座の様子）



（写真13 ミャンマー 校内写真展の様子）



（写真14 ミャンマー パネルディスカッションの様子）

【経済・共生共育】

- ・キャッチコピー講習 講師：コピーの学校 杉山浩二 1年国語の授業（9月）
- ・商店のポスター制作 地元商店街とのコラボ企画
①森染（お祭り用品店）を訪問取材（写真15）
②デザイン専門家（沼津情報ビジネス専門学校講師）によるアドバイス
情報処理部生徒と分校生が参加してポスターを制作（10月）
- ・地元企業講演会 5社 講演企業：アサギリ、朝日鉄建、エージェントうさみ、かごや、シンコーラミ工業 1年対象（10月）（写真16）

- ・富士・富士宮の企業調べ
1年、タンタタイムで実施（10月、11月）
- ・実践的な情報処理技術の演習講座 講師：ファイン
ネット協同組合（12月、1月）
- ・税理士による講演会 講師：P T A顧問 税理士
渡邊稔夫 1年対象（12月）
- ・地元企業見学 アマダ富士宮営業所 希望者（12月）
（写真17）



（写真15 お祭り用品店を訪問取材）



（写真16 地元企業講演会の様子）



（写真17 アマダ富士宮営業所の見学）

【観光】

- ・富士山お山開きボランティアへの参加 希望者（7月）
- ・グローバルエコツーリズム講演会 講師：エコロジ
ック代表理事 新谷雅徳 1年対象（7月）

【防災】

- ・静岡県防災センターとの交流講座
地域社会の課題や取組について、生活・観光・防災・
教育・福祉の5つの観点を5クラスに割り振って学
習。防災担当クラスは、富士・富士宮の「防災」に

ついて事前研究をした後、県防災センターの担当者
と交流。公民科公共の授業レポート作成、発表（9月、
10月）

- ・防災教育連絡会議での上記の内容をプレゼンテーシ
ョン（11月）（写真18）



（写真18 防災連絡会議でのプレゼンテーション）

5. 総合的な探究の時間（タンタタイム）の実施

令和4年度から新教育課程が始まり総合的な探究の
時間が週時程（水曜日7時間目）に設置され、本格的
に実施されることになったため、令和3年度のオンリー
ワン・ハイスクール校内推進委員会において、総合的
な探究の時間の在り方を協議した。楽しい探究活動に
なるように名称を「タンタタイム」と決定し、令和
4年度の活動目標と計画を立てた。オンリーワン・ハ
イスクール事業と連携して実施している。

卒業時の最終目標

グローバルな視点をもって、主体的で意欲的に地域
課題を解決し、地域から世界へと羽ばたくグローバル
リーダーになる。

タンタタイムの目標

- ①主体的・意欲的に学び、責任をもって社会に貢献で
きる力を身に付ける
- ②地域社会の課題を発見し、解決に向け他者と協働で
きる力を身に付ける

1年生年間計画（令和4年度）

1学期

- ・ファシリテーション（グループワーク）研修
- ・人間関係づくり
- ・探究学習のガイダンス、目的・活動説明等
- ・進路別（進学、就職）進路研究
- ・新聞の読み方講座、オンライン検索方法学習

2学期

- ・進路調べ発表会（グループ代表、クラス代表、学年
NO.1を決める。）
- ・富士・富士宮の企業調べ

3学期

- ・富士・富士宮の魅力や課題を考える
- ・富士・富士宮の魅力や課題のグループ発表、クラス
発表、学年発表会

2年生年間計画（令和5年度予定）

1年次は、「富士宮の魅力や課題」についてグループで発表を行ったことを踏まえ、2年次ではさらに深めた活動とする。「オンリーワン・ハイスクール」事業のグローバル・ハイスクールのテーマである「世界文化遺産・富士山の恵みを活かし、地域と世界で活躍するグローバル人材の育成」を目指し、「環境」、「観光」、「防災」、「経済」、「国際」の5つの領域から生徒が課題を発見し、解決していくことを目標とする。

1学期

- ・「環境」、「観光」、「防災」、「経済」、「国際」の5つの領域から1つの領域を選択する。4人程度のグループ作りをする。
- ・グループで具体的にどのような課題があるかを考え、1つのテーマに絞り、探究計画書の作成、調べ学習を行う。

2学期

- ・フィールドワークやインタビューをし、調査を深める。
- ・領域ごとに中間発表会を行う。
- ・宮北応援コンソーシアムの方々を中心にアドバイスをもらう。
- ・中間発表会の反省を踏まえ、さらに調べ学習を深める。

3学期

- ・学年で発表会を行う。

3年生年間計画（令和6年度予定）

3年生では1、2年次の探究活動を踏まえ、自分の進路と関係した探究活動を深めたものとしていく予定である。

6. 教員の資質・能力向上研修

オンリーワン・ハイスクール事業や総合的な探究の時間を推進し、グローバル人材を育成していくために必要となるファシリテーションなどの教員の資質・能力向上研修を以下のように実施した。

ファシリテーション研修①

講師：ファシリテーター普及協会 小野寺郷子 静岡大学 水谷洋一

講師が生徒対象のワークショップを行う様子を全教員が見学した。講師がファシリテーター役となり、生徒が行うグループワークを活性化させることで、しだいに生徒が意欲的になっていく様子を間近に見学した。見学によってファシリテーションの効果を実感することができた。

ファシリテーション研修②

講師：静岡大学 水谷洋一

事前研修として実施した上記のグループワークを振り返りながら、グループワークを成功させるコツやポイントを学ぶことができた。

「総合的な探究の時間」の推進研修

講師：総合教育センター 鈴木彰洋

「総合的な探究の時間」の充実を図るため、他校の事例を紹介していただきながら、探求学習の意義や目標を確認する研修を実施した。

ICT活用研修①

講師：総合教育センター 杉山洋一

各教科の代表の教員が、導入されたクロームブックを利用したプリント、課題の配布・回収の方法や、協働学習アプリを利用したグループワーク学習の方法などを紹介した。効果的なICT活用の方法について共有することができた。

ICT活用研修②

講師：情報課職員

1年生の総合的な探究の時間でのクロームブック活用事例の紹介、県外ICT推進校の視察報告、グループワークに活用できる商業実践室の利用方法の説明などを研修として行った。

オンリーワン・ハイスクール事業や総合的な探究の時間を推進し、グローバル人材を育成するためには、教員自身が国際社会や地域社会に関心を持ち、地域の人材と協力して教育活動を行っていく能力が求められる。コンソーシアムの委員と校内の推進委員会の教員が連携し、様々な教育活動を企画することで、生徒だけでなく、教員自身も国際問題や地域について関心を持つことができるようになった。また、地元企業の講演会の実施など、教員が直接企業の経営者などとコミュニケーションを持つ機会を得たことで、社会が実際に必要としている人材の能力について知り、生徒に社会で必要とされている能力を身につけさせたいという意欲が教員に培われてきている。

7. 成果とその要因

令和4年10月に県の運営指導委員会において本事業についての中間発表を行い、運営委員の方々から以下のようなコメントをいただいた。

委員のコメント（主なコメント）

- ・コンソーシアムが形骸化せずに機能している。
- ・様々な企画が進んでいる。
- ・地元の人々が応援している。
- ・市役所や商工会議所を使っている。
- ・人とのつながりを大事にしている。
- ・海外へアプローチをしている。
- ・生徒の学びがすばらしい。
- ・各教科の中でも進めている。
- ・HPの更新に力を入れている。
- ・事業をやるだけでなく、発信している。

以上のような高い評価をいただくことができた。

また、生徒向けアンケートを令和5年1月に実施した。（表1）

いずれの質問項目とも肯定的な結果が表れた。オン

リーワン・ハイスクール事業の活動を通して、生徒が世界に関心を示し、自分の進路や地域の課題について真剣に考えるようになったことが伺える結果となった。

教員についてもアンケート調査を実施した。（表2）教員についても以前に比べ、グローバルな視点や地域のことに関心をもつように指導するようになった割合が高くなった。生徒に比べて肯定的な数値が低くなっ

ているのは、オンリーワン・ハイスクール事業の活動が推進委員の教員が中心となって企画・運営されており、全体的な取り組みとなっていない点にあると思われる。今後は推進委員以外の教員も活動に主体的に企画・運営に参加できる仕組みに改善していく必要がある。

オンリーワン・ハイスクール事業 全校生徒アンケート結果（令和5年1月実施）（表1）

	質問内容	1	2	3	4	3・4計	回答総数
1	世界のことを知りたい、という気持ちが以前より強くなった。	2.9%	20.5%	63.4%	13.1%	76.6%	580
2	将来やりたいことについて、以前より頻繁に考えるようになった。	0.9%	8.1%	41.9%	49.1%	91.0%	580
3	将来の進路実現のために、以前より主体的に様々なことを学びたいと思うようになった。	2.1%	7.1%	60.0%	30.9%	90.9%	580
4	あなたは、将来、地元で地域貢献をしたいと思いませんか？	3.6%	20.2%	56.6%	19.7%	76.2%	580
5	あなたは、社会課題の解決に、興味・関心がありますか？	2.4%	12.9%	65.9%	18.8%	84.7%	580

1. まったくそう思わない 2. あまりそう思わない 3. まあそう思う 4. とてもそう思う

オンリーワン・ハイスクール事業 教員アンケート結果（令和5年1月実施）（表2）

		1	2	3	4	3・4計	回答総数
1	自分は以前より、生徒がグローバルな視点をもつように指導するようになった。	4.7%	30.2%	51.2%	14.0%	65.1%	43
2	自分は以前より、生徒が地域のことに関心を持つように指導するようになった。	4.7%	25.6%	51.2%	18.6%	69.8%	43
3	自分は以前より、調べ方についての指導をするようになった。	4.7%	34.9%	44.2%	16.3%	60.5%	43
4	自分は以前より、グループワークや意見交換の指導をするようになった。	4.7%	30.2%	39.5%	25.6%	65.1%	43

1. まったくそう思わない 2. あまりそう思わない 3. まあそう思う 4. とてもそう思う

本事業活動が大きな成果を得ることができた一番の要因は、地域社会の最前線で活躍している人材を集め、コンソーシアムを立ち上げたことにある。コンソーシアム立ち上げにあたっては管理職が委員一人一人を訪問し、コンソーシアムの趣旨やねらいを丁寧に説明した。また、静岡大学の水谷教授に委員長をお願いし、地域と連携した多様な教育活動をバランスよく企画、提案、実施することができた。さらに校内に立ち上げた推進委員会とコンソーシアムを5つのテーマ（領域）に分けて結びつけたことで、互いに連携し、協力し合って、事業を企画、運営することができた。初年度（令和3年度）は、委員の多くを分掌の課長をお願いした

ため、日常業務に忙しく思うように活動が進まないことがあったが、令和4年度は、各テーマに興味・関心を持っている若手教員を多く委員にしたことで、活動が自主的、活発に行えるようになった。校内の推進委員は、社会で活躍する専門家と連携・分担することで、生徒に多様な体験の機会を与えることができ、社会貢献できる人材の育成に貢献できるという自覚、使命を持つことができた。

入学当初にグループワーク研修を行って、生徒がオンリーワン・ハイスクールの活動を行っていく上で必要となるコミュニケーション能力を身に付けることができたことも成果を挙げることができた大きな要因と

なった。さらにオンリーワン・ハイスクールの事業活動を総合的な探究の時間に関連づけることで、総合的な探究の時間を充実したものにすることができた。生徒は総合的な探究の時間を通して、情報を収集する力、レポートを作成する力、分かりやすく相手に伝える力を着実に身に付けてきている。

地域と連携したオンリーワン・ハイスクールの活動や総合的な探究の時間の活動によって、生徒は今まで知らなかった地域の課題や、国際的な問題に興味・関心を持つことができ、探究することの楽しさを知り、学習するモチベーションを高めることができた。これらの活動によって地域に貢献できるグローバル人材になることを目指して着実に成長しつつある。

8. 今後の課題と展望

来年度はオンリーワン・ハイスクールの指定校として3年目、最終年度となる。過去2年間の実績と反省を活かして、地域と連携した教育活動をさらに広げていきたい。そのためには、「覇気・信念・明朗」の校訓のもと、文武両道の精神で諸活動に取り組み、地域に貢献できるグローバルリーダーを育成するという本校のスクールミッションに基づく、スクールポリシーを確立し、育成したい能力・資質を明確にしてこの事業を推進していく必要がある。教職員一人一人がスクールポリシーを意識し、地域と連携して教育活動に取り組むことで、チーム学校経営に参画している意識を高めることが重要である。

本年度の1年生から本格的に始まった総合的な探究の時間（タンタタイム）は、オンリーワン・ハイスクール事業と連携して、地域の課題解決学習や進路学習を深める活動となった。しかし、限られた回数の中でどの時期にどのような内容を実施することが効果的であるか再検討する必要がある。来年度の1年生の活動は、学校全体のオンリーワン・ハイスクールの活動と調整を図りつつ、内容を精査して実施していきたい。来年度の2年生の総合的な探究の時間では、1年生の活動を踏まえた上で、さらに地域と連携した活動を広げ、探求活動を深められるようにしていく必要がある。また、それぞれの活動の評価の在り方、ポートフォリオとしてどうまとめていくかも大きな課題として残っている。

オンリーワン・ハイスクール事業の指定校は3年間で終了するが、その後も活動は継続する予定である。そのためには、この活動が、持続可能で、教員も生徒も無理なく楽しく行っていくことができるようにすることがなによりも重要である。少しずつ地域連携の輪を広げ、活動の改善を積み重ねることで、地域に貢献できるグローバルリーダーを地域とともに育成していきたい。